

第35回 The 35th Annual Meeting of the
Japanese Maillard Reaction Society
日本メイラード学会年会



2025.10.25(土)
会場:弘前大学健康未来
イノベーションセンター



第 35 回 日本メイラード学会 年会

会期 2025 年 10 月 25 日(土)

会場 弘前大学健康未来イノベーションセンター
〒036-8562 青森県弘前市在府町 5

会長 水上浩哉
(弘前大学大学院医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンター
分子病態病理学講座)

年会事務局 佐々木崇矩

会長挨拶

第 35 回 日本メイラード学会 年会

会長 水上 浩哉

(弘前大学大学院医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンター分子病態病理学講座)

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、第 35 回日本メイラード学会年会を令和 8 年 10 月 25 日(土)、弘前大学医学部未来イノベーションセンターにて開催させていただくことになりました。

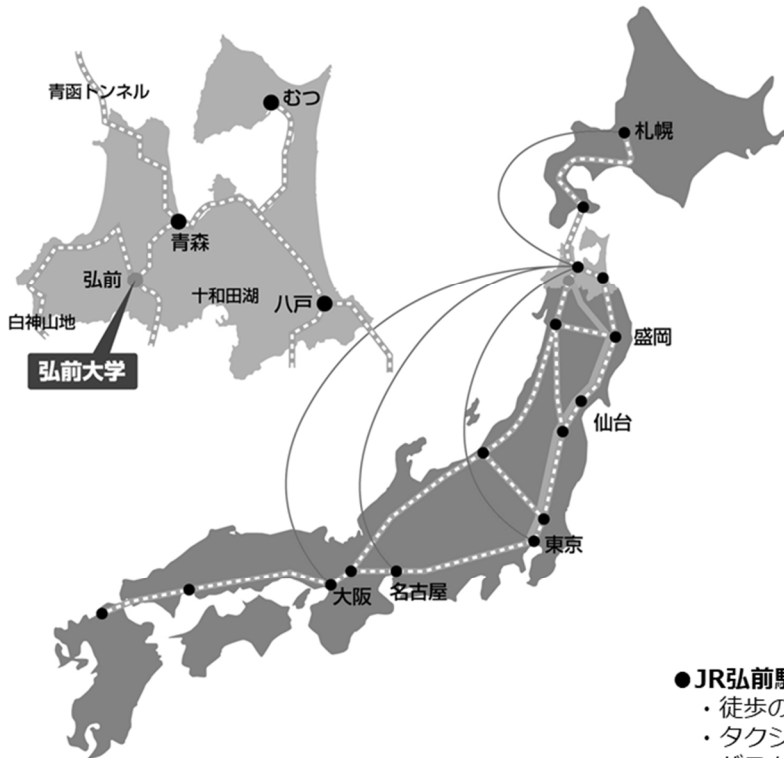
本学会は、その前身となるメイラード反応研究会から、医学系（基礎生化学、病理学、臨床医学、薬学）と農学系（食品学、分析化学、応用生化学）の研究者が集う領域横断的な学会としてのユニークな展開を見せています。医学、薬学、農学、化学の研究者が一堂に会する機会は少なく、メイラード反応という側面から活発な議論を行っているのが本会の特徴です。前任の八木橋操六名誉教授が 1998 年に第 8 回メイラード反応研究会として青森で年会を開催して以来約 30 年ぶりの青森県開催となります。私自身も大学院生時代に学会に参加させていただき、貴重なご意見、ディスカッションを頂き、研究者として育てていただきました。そのような思い出のある学会年会を開催させていただくことを大変光栄に存じます。

第 35 回年会では特別講演は、弘前大学大学院医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンターの伊東健教授をお願いしております。弘前大学で行われている岩木健康増進プロジェクトに基づく一般住民におけるビッグデータの解析についてお話していただきます。シンポジウムはメイラード研究の最前線と題して、国内、国外のメイラード研究者について最新の研究内容をご発表していただく予定です。例年通りの若手奨励賞も口演審査により選出したいと思います。

10 月の弘前は冬直前であり、また収穫の秋であります。そこで、少しでも弘前の秋を体験していただこうと 26 日にはエクスカーションとしてリンゴ狩りを企画いたしました。北国の長い冬を迎える躍動感そのままに熱い議論を期待すると同時に、弘前自体の味覚も堪能していただけたらと思います。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

交通のご案内

■ 弘前大学 健康未来イノベーションセンター 〒036-8562 青森県弘前市在府町 5



● 青森空港から

青森空港 → 弘前駅 (バス) 約55分

● 新幹線

東京 → 新青森 (約3時間10分 (はやぶさ)) → 弘前 (約30分 (特急つがる))

新函館北斗 → 弘前 (約1時間 (はやぶさ))

● JR奥羽本線

青森 → 弘前 (約30分 (特急))

秋田 → 弘前 (約2時間 (特急))

● 高速バス

東京(品川・浜松町) → 弘前 (約9時間15分 (ノクターン号))

横浜 → 弘前 (約9時間45分 (ノクターン号))

仙台 → 弘前 (約4時間40分 (キャッスル号))

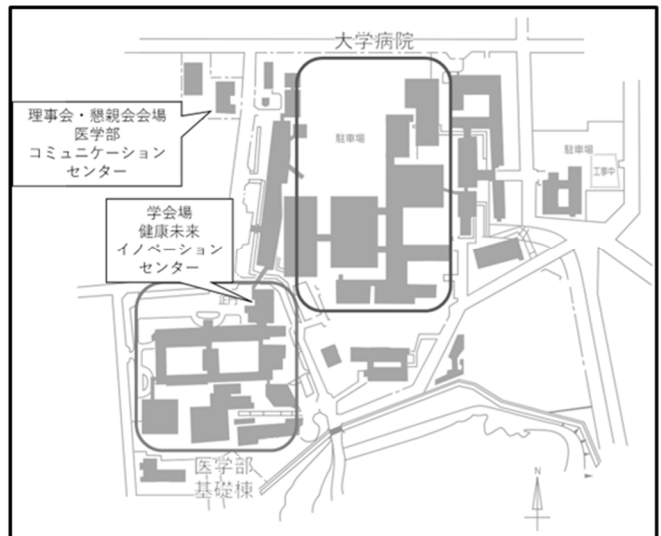
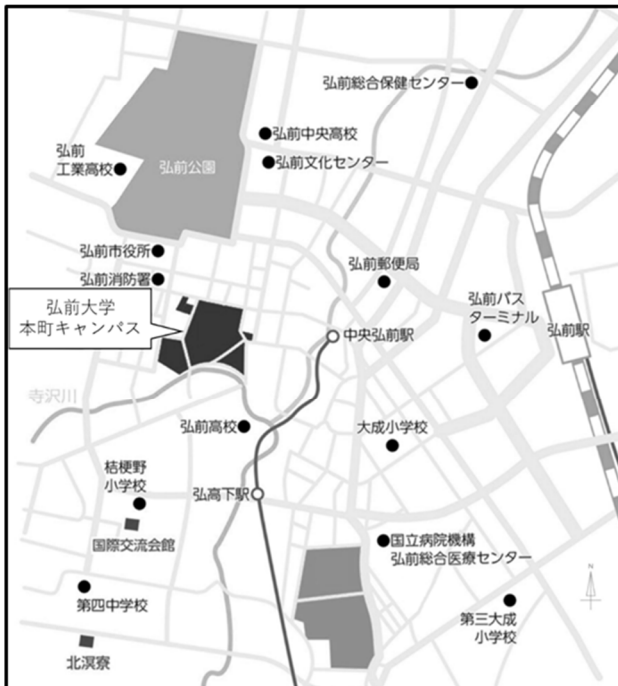
盛岡 → 弘前 (約2時間15分 (ゴニテル号))

● 東北自動車道

川口JCT → 大鰐・弘前IC (643.7km) → 弘前 (20分)

● JR弘前駅から

- ・ 徒歩の場合(約20分)
 - ・ タクシーを利用する場合(約5分)
 - ・ バスを利用する場合(約15分)
- JR弘前駅前(中央口)より乗車、「大学病院前」で降車



お知らせとお願い

1.参加受付

- ・受付場所 弘前大学 健康未来イノベーションセンター 1F ロビー
- ・受付時間 10月25日(土) 8:30~17:00
- ・参加費 会員 10000 円
 非会員 13000 円
 学生 無料
- ・懇親会費 4000 円(学生は無料)

※会期中、会場内では必ず参加証をご着用ください。

2.座長の先生方へ

担当されるセッションの 20 分前までに会場内の「次座長席」にご着席ください。
時間厳守の進行と活発なご討論をお願い致します。

3.演者の先生方へ

●発表時間

一般演題 発表 7 分、質疑応答 3 分
シンポジウム 講演 20 分、質疑応答 5 分

●口演発表について

- ①発表は PowerPoint による PC 発表のみとなります。
- ②発表の 30 分前までに会場 1F 受付隣の PC・データ受付にて受付をお済ませいただき、会場内の「次演者席」にてお待ちください。
<受付時間> 10月25日 8:30~14:00
- ③データ受付は USB フラッシュメモリーのみとなります。
- ④口演データのファイル名は「セッション名_番号_発表者氏名」で保存してください。
- ⑤口演データは作成後、作成した PC 以外で正常に動作するかチェックしてください。
- ⑥Macintosh をご使用の場合、動画（Power Point のアニメーション機能を除く）を使用される場合は、ご自身のノートパソコンをご持参ください。
 - ・バックアップ用データとして USB フラッシュメモリーをご持参ください。
 - ・PC の AC アダプターは必ずご用意ください。

- ・会場でご使用いただく PC ケーブルコネクタの形状は「HDMI」です。この形状にあった PC をご用意ください。また、この形状に変換するコネクタを必要とする機種の場合は、必ず変換するプラグをご自身でお持ちください。
- ・あらかじめ、スクリーンセーバー、省電力設定、起動時のパスワード設定は解除しておいてください。

⑦音声はご利用いただけます。

⑧タブレット端末を使用しての発表はご遠慮ください。

⑨PC・データ受付ではデータの修正は出来ませんので、予めご了承下さい。

⑩各演者からお預かりしたデータは、年会事務局の責任において学会終了後に破棄いたします。

4.若手研究奨励賞ご応募の先生方へ

懇親会会場にて授与式を行います。受賞者の発表は事前に掲示いたしますので何らかの事情により受賞者が欠席される場合は代理の方に出席をお願い致します。

5.懇親会

10月25日(土) 17:25～ 弘前大学 医学部コミュニケーションセンター 1F

日程表

10月25日（土）

弘前大学医学部(本町キャンパス)

講演会場
＜健康未来イノベーションセンター＞

＜弘前大学医学部
コミュニケーション
センター＞

開会の辞 9：55～

一般演題1(若手研究奨励賞審査2演題含む)①～⑤
5演題
10:00～10:50(発表7分 質問3分)
座長:金森審子・棟居聖一

特別講演 弘前大学医学研究科 分子生体防御学講座 伊東健
「Global Well-beingに向けた老化制御研究 ― トランスレーションを加速する産学連携」
11:00～12:00
座長:水上 浩哉

昼休み

理事会

大会長講演 弘前大学医学研究科 分子病態病理学講座 水上 浩哉
「病理学からみた糖尿病研究 ～RAGEを中心に～」
13:00～13:40
座長:山本靖彦

ミニレクチャー 同志社大学生命医科学部 米井嘉一 「「次世代エイズ」プロジェクトの成果:低出生体重児の減少と糖化ストレス」
座長:大矢友子

一般演題2 ⑥～⑨
4演題
14:15～14:55 (発表7分 質問3分)
座長:藤原章雄・須川日加里

シンポジウム
「糖化反応研究最前線」
1. 山本 靖彦(金沢大学 医薬保健研究域医学系 血管分子生物学)
2. 藤田 征弘(弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座)
3. 井之上 浩一(立命館大学大学院薬学研究科臨床分析化学研究室)
4. Wei-Lun Hung(School of food Safety, College of Nutrition, Taipei Medical University)
5. 鳥海 和也(東京都医学総合研究所 臨床医科学研究分野 統合失調症プロジェクト)
座長:永井竜児

懇親会/
表彰式

プログラム

2025 年 10 月 25 日(土)

一般演題 1(5 題)(若手研究奨励賞審査演題 2 題を含む)

10:00~10:50

座長: 金森審子(東海大学工学部生物工学科)

棟居聖一(金沢大学医薬保健研究域医学系血管分子生物学)

1. フマル酸を介した新規のマクロファージ泡沫化機序の解析

¹東海大学大学院生物科学研究科、²同農学部食生命科学科、³同総合農学研究所

⁴熊本大学大学院生命科学研究部、⁵熊本保健科学大学保健科学部

○高橋姫乃¹、須川日加里²、勝田奈那³、藤原章雄⁴、松村剛⁵、永井竜児^{1,2}

2. 血清を対象とするノンターゲット AGEs メタボロミクスの開発

¹立命館大学大学院薬学研究科 臨床分析化学研究室

○藤尾礼那¹、高山卓大¹、井之上浩一¹

3. Detection of OP-lysine in human serum using liquid chromatography with tandem mass spectrometry

¹Department of Biology, School of Science, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang, Bangkok 10520, Thailand

²Department of Food and Life Sciences, School of Agriculture, Tokai University, Japan

³Bioenergy Research Unit and Department of Biology, School of Science, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang, Bangkok 10520, Thailand

○Nathanan Preechaphonkul^{1,2}, Hikari Sugawa², Cherdasak Maneeruttanarungroj^{1,3}, Ryoji Nagai²

4. リノール酸の一重項酸素酸化と グリオキサール、メチルグリオキサールの生成

○Duan Zehao¹、上遠野佑紀¹、楠本惟吹¹、加藤俊治^{1,2}、服部浩之³、青木亮輔^{1,4}、佐藤俊郎^{2,4}、今義潤⁴、仲川清隆^{1,2}

1 東北大学大学院・農学研究科・食品機能分析学、2 東北大学大学院・農学研究科・J オイルミルズ油脂イノベーション共同研究講座、3 東北大学大学院・農学研究科・食品 化学、4 株式会社 J-オイルミルズ

5. 還元型セレノグルタチオンによるグリオキサラーゼ 1 様活性の解析

¹ 東海大院工研、²東海大理・化学、³東海大先進生命研、⁴東海大工・生物工学

○陳 詩文¹、岩岡道夫^{2,3}、金森審子^{1,3,4}

特別講演

11:00~12:00

座長:水上浩哉(弘前大学大学院医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンター分子病態病理学講座)

「Global Well-being に向けた老化制御研究 — トランスレーションを加速する産学連携」

演者:伊東健(弘前大学大学院医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンター分子生体防御学講座)

大会長講演

13:00~13:40

座長:山本靖彦(金沢大学大学院医学系研究科血管分子生物学)

「病理学からみた糖尿病研究 ～RAGE を中心に～」

演者:水上浩哉(弘前大学大学院医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンター分子病態病理学講座)

ミニレクチャー

13:50~14:05

座長:大矢友子(修文大学健康栄養学部管理栄養学科)

「「次世代エイド」プロジェクトの成果:低出生体重児の減少と糖化ストレス」

演者:米井嘉一(同志社大学)

一般演題 2(4 題)

14:15~14:55

座長:藤原章雄(熊本大学大学院生命科学研究部)

須川日加里(東海大学農学部食生命科学科)

6. システイン-ヘキソース系メイラード反応色素 furpithiazinate の構造解析、生成条件検討および食品中の探索

¹お茶の水女子大学ライフサイエンス専攻、²東京農業大学応用生物科学部農芸化学科

秋山 望実¹、田中 悠海¹、山内 一姫¹、村田 容常²、野田 響子¹

7. モデル系での β -カルボリン誘導体の同定とそれらのビールにおける探索

¹お茶の水女子大学ライフサイエンス専攻、²東京農業大学応用生物科学部農芸化学科

○前田 樹理子¹、加藤 歩¹、齋藤 千晴¹、村田 容常²、野田 響子¹

8. RAGE によるヒト骨肉腫細胞幹細胞性の獲得に関わる分子の同定

金沢大学医薬保健研究域・医学系・¹血管分子生物学、²内分泌・代謝内科学

○棟居聖一¹、武内章彦¹、原島 愛¹、木村久美¹、大島 由¹、後藤久典²、田中麻莉子¹、Yupa Srithongchai¹、河野修平¹、高橋宏弥¹、松川龍太郎¹、Sakulsak Pathitta¹、岩田昭子¹、宮本慎吾¹、高村恭之¹、村坂優志¹、新谷康夫¹、甲田実奈¹、Nontaphat LEERACH¹、山本靖彦¹

9. グリケーションによる抗利尿ホルモンの機能変化

¹金沢大学医薬保健研究域・医学系・血管分子生物学

○原島 愛¹、Wah Wah Aung¹、木村久美¹、棟居聖一¹、Nontaphat Leerach¹、大島 由¹、Yupa Srithongchai¹、高橋宏弥¹、松川龍太郎¹、Sakulsak Pathitta¹、河野修平¹、山本靖彦¹

シンポジウム「糖化反応研究最前線」

15:05～17:10

座長：永井 竜児(東海大学農学部食生命科学科)

S-1 糖化による老化・疾患の進展と抗糖化戦略

○山本 靖彦

金沢大学 医薬保健研究域医学系 血管分子生物学

S-2 糖脂質代謝における糖化タンパクの役割

○藤田 征弘

弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座

S-3 質量分析法で AGEs バイオマーカーを見つけ出す

○井之上 浩一

立命館大学大学院薬学研究科 臨床分析化学研究室

S-4 Occurrence of dietary advanced glycation end products in processed foods

○Wei-Lun Hung

School of food Safety, College of Nutrition, Taipei Medical University

S-5 統合失調症におけるペントシジン蓄積：その分子基盤と臨床的意義

○鳥海 和也

東京都医学総合研究所 臨床医科学研究分野 統合失調症プロジェクト

協賛企業・団体一覧

【学術集会助成】

弘前大学医学部鵬桜会

弘前市観光協会

【寄付】

雪印メグミルク 株式会社

株式会社 森永生科学研究所

株式会社 シバタ医理科

株式会社 ライジンシャ

日本メイラード学会第35回年会の開催にあたり、多くの団体・企業様からご協力を頂きました。

ここに深く感謝し御礼申し上げます。

日本メイラード学会第35回年会

会長 水上 浩哉

おかげさまで創業100周年

100th
Anniversary



Love Earth. Love Life.

雪印メグミルク



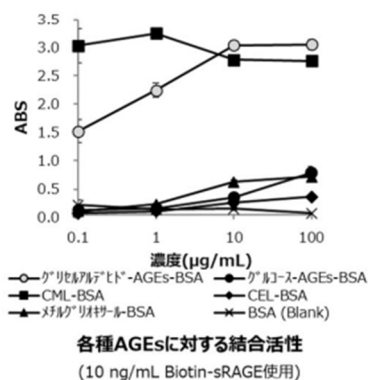
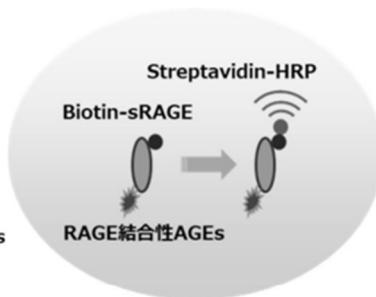
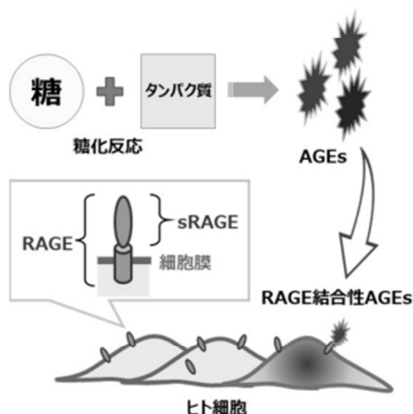
研究用試薬

Biotin-sRAGE, Human, Recombinant

(Biotinylated soluble receptor for advanced glycation end-products, Human, Recombinant)

本製品は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の特許実施許諾（特許第6617110号、特許第7262102号）を受けています。

終末糖化産物受容体 (Receptor for advanced glycation end products, RAGE) は、糖尿病合併症や、アルツハイマー型認知症などの加齢性疾患との関連が注目されています。RAGEは、一回膜貫通型受容体として存在する他、血中で可溶性RAGE (soluble RAGE: sRAGE) としても存在しています。本製品は、遺伝子組換えカイコを用いて生産されたBiotin化sRAGEです。



〈参考文献〉

1. Sci. Rep., 10.1038/s41598-017-00420-4 (2017)
2. Anal. Sci., 35, 237-240 (2019)
3. Anal. Biochem., 611, 15 (2020)

Biotin-Streptavidin相互作用を利用して、各種AGEsとsRAGEの結合活性を評価可能です。

特長

1 Biotin-sRAGE

sRAGE 1分子にビオチン1分子が付加されているため、各種検出系に活用できます。

2 保存安定性

カイコ発現系によるBiotin-sRAGEは大腸菌発現系に比べて、安定性に優れています。

使用方法

精製水 200 µLで溶解してからご使用ください。



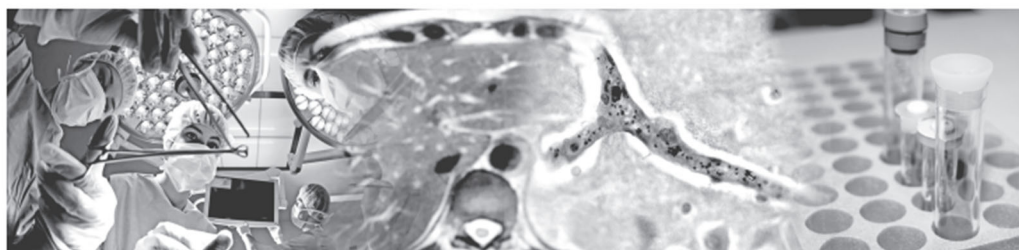
製品データシートは
こちら→



製品コード	製品名	容量	希望小売価格（税抜き）
M1401	Biotin-sRAGE, Human, Recombinant	50 µg（凍結乾燥品）	160,000円

－ 技術に生きる －

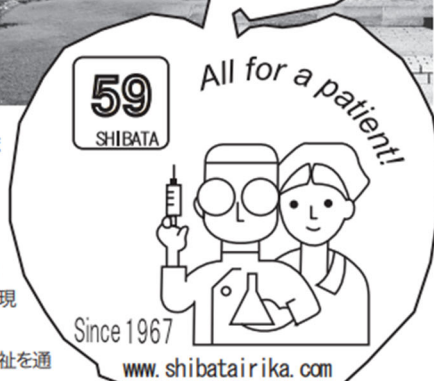
医療に仕え、地域医療を支える 全ては患者の笑顔の為に



新しい知見・価値観が生まれ、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。目まぐるしく変化する医療ニーズに応えるため、私たちは『技術に生きる』を合言葉に、日々新しい技術を開発・導入し、お客様の課題を解決してまいりました。

変化の激しい時代だからこそ、私たちは『患者さんのために』という創業以来の理念を忘れず、常に患者さんの立場に立って考え、より良い医療・福祉の実現に貢献してまいります。

私たちは、日々の仕事に命に関わる事への責任と誇りを持ち、医療・研究・福祉を通じ、より良い未来のために社会に貢献して参ります。



医療機器・理化学機器・介護福祉機器・物流管理



株式
会社



医理科

本社・〒036-8084

青森営業所・〒030-0964

八戸営業所・〒031-0822

大館営業所・〒017-0872

むつ営業所・〒035-0063

五所川原駐在所・〒037-0023

弘前市大字高田3丁目7-1

E-mail: info-hirosaki@shibatairika.com

青森市南佃1丁目14-10

E-mail: info-aomori@shibatairika.com

八戸市白銀町字堀ノ内3-1

E-mail: info-hatinohe@shibatairika.com

大館市片山町2丁目12-15

E-mail: info-odate@shibatairika.com

むつ市若松町2-54

E-mail: info-mutsu@shibatairika.com

五所川原市大字広田字榊森7-1

E-mail: info-gosyogawara@shibatairika.com

☎・0172 (27) 2221(代)

☎・0172 (27) 1222

☎・017 (743) 3322(代)

☎・017 (743) 3221

☎・0178 (34) 1122(代)

☎・0178 (34) 1123

☎・0186 (45) 1222(代)

☎・0186 (44) 5222

☎・0175 (23) 8760(代)

☎・0175 (23) 8761

☎・0173 (38) 5222(代)

☎・0173 (38) 5221